

## 石グループ 第1号

### 笏谷石とは

笏谷石は、今から1700万年前に火山が噴火し、降り積もった灰が長い時間をかけて固まってできた「火山礫凝灰岩」（かざんれきぎょうかいがん）です。福井県足羽山（あすわやま）で採れる石で、きれいな青色をしており、柔らかく、きめが細かいため加工がしやすいという特徴があります。

1500年前の古墳時代から、様々なものに利用するため、採石し、使っていました。福井県では、石仏、墓、城の石垣や、建物の材料などに利用され、現在も町の文化を伝えるものとして残されています。江戸時代には、北前船で日本中に運ばれ、寿都町にも福井県から運ばれてきたと考えられる笏谷石が、町のあちこちで使われ、様々な形で残されています。

近年では福井県での採石が終了し、石の重要性が再認識されています。

### 寿都石とは

寿都町に残る笏谷石を探すうちに、やや黄色みのある石のベースに、黒く小さな丸石が入っている石が、町のあちらこちらで使われていることに気がきました。産地や採石場についての詳細は不明ですが、町中のいたるところで見かけるため、寿都町内または近隣で採石し、身近な石として利用していたと考えられます。このことから、お宝勉強会では「寿都石（仮）」と名付け、調査を始めました。

### 寿都でみつけた 笏谷石



稻荷神社の縁石と思われる  
新栄会館公園の縁にある笏谷石



歌楽にある橋本家土蔵の棟石に  
使われている笏谷石

### 寿都オリジナル？ 寿都石（仮）



美しく積まれている町営駐車場の石垣



寿都石（仮）と思われる  
有戸佐藤家の敷地内の階段

2020年2月現在、寿都町内での石調査は、全92件で、うち笏谷石が50件、寿都石33件、その他が9件となっています。

笏谷石は、石垣、縁石、階段、敷石のほか、いくつか放置されているものもありましたが、狛犬や石碑に使われている石もありました。笏谷石の価値は、町内ではまだまだ知られていないため、庭の縁石や建物の基礎石に使われていても所有者が気づかないことも多く、調査員から知らされて驚かれることもありました。

寿都石（仮）のほとんどは、石垣や階段に利用されています。身近で普段遣いされている印象を受けるため、採石場所や、寿都石と命名することの可否などについて、今後の調査が楽しみです。

笏谷石、寿都石に関するみなさまからの発見・報告をお待ちしております！！